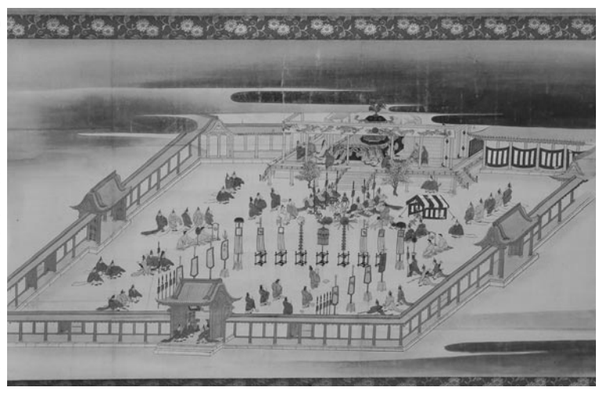
今上陛下が生前譲位（退位）のお考えをお持ちのことが知られるようになってから、一番近くに生前譲位した江戸時代後期の光格天皇が注目されている。傍系の閑院宮家から即位したこともあってか、光格天皇は理念的な天皇を求める傾向が強く、中世以来絶えていた朝廷儀礼の再興、天皇の権威の回復に熱心で、近代天皇制へ移行する起点になったとされる。明治の朝廷儀礼に詳しく、「光格天皇御即位礼式絵図」を所蔵し、毎年、新春には掲げ眺めているという生田神社名誉宮司の加藤隆久師に話を伺った。（多田則朗）


「光格天皇御即位礼式絵図」（60×97㎝）加藤隆久所蔵

光格天皇が拓いた明治維新への道

加藤隆久・生田神社名誉宮司に聞く

今上陛下のご指示

――光格天皇がここ数年、脚光を浴びています。

私は毎年、正月に掲げていた「光格天皇御即位礼式絵図」を、今年はとりわけうるわしく眺めたものです。平成29年（2017）1月24日付産経新聞には、今上陛下が平成22年頃に生前譲位のご意向を示された当初、最後に譲位された光格天皇の事例を調べるように宮内庁に伝えられたとあります。同年10月21日の読売新聞朝刊にも「天皇の退位は1817年の光格天皇以来約200年ぶり」と「光格天皇以来」が枕詞のように報道されていました。

今上陛下は昨年8月8日、「象徴としてのお務めについて」とされる11分のビデオメッセージを発表され、ご退位のご意向をにじませられました。宮内庁はその全文を公表しています。

それは天皇の生前退位を認めていない現行の皇室典範に抵触し、憲法の問題も絡んで論議を呼びました。しかし、世論調査等では国民の圧倒的多数が退位を支持し、結局、平成29年（2017）6月9日に成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」の附則第1条により、現天皇に限り退位が可能になりました。そして平成31年4月末日の退位が決定され、退位後の称号は上皇と決められました。これも光格天皇（上皇）以来のことです。

今上陛下が平成22年秋頃、宮内庁に光格天皇についての調査を求めたことが新聞記者らの間で話題になり、歴史をたどると生前退位が200年前の光格天皇の譲位であることが知られるようになりました。

今上陛下は退位後の光格上皇のあり方についても強いご関心をお持ちで、その調査を求められたと言われています。こうして光格天皇は、図らずも埋もれていた歴史の片隅から呼び出され、にわかに脚光を浴びることになりました。私の所蔵する「光格天皇御即位礼式絵図」も、今年5月から「即位礼と大嘗祭」の特別展を開催予定の皇學館大学神道博物館から借用の申し込みがあります。

――今上陛下と光格天皇とのかかわりは。

現天皇家は実は光格天皇から始まる血統を引き継いで来られました。江戸時代は皇位を天皇である父親から実子へと嗣いで来られましたが、光格天皇は先代の後桃園天皇の実子ではなく、閑院宮という宮家にお生まれになり、天皇の養子になられて皇位に就かれました。光格天皇から仁孝、孝明、明治、大正、昭和と嗣いで今上陛下に至っています。つまり今上陛下は光格天皇から始まるお血筋です。このように光格天皇と現天皇家とは深いご縁を持っておられるのです。

かとう・たかひさ　昭和9年岡山市生まれ、國學院大學大学院神道学専攻修士課程修了。神戸女子大学教授などを経て生田神社宮司になり現在は名誉宮司。神社本庁長老、神戸女子大学名誉教授、神戸芸術文化会議議長、神戸史談会会長、神仏霊場会顧問。文学博士。著書は『生田の杜とミナト神戸の事始め』『よみがえりの社と祭りのこころ』（以上、戎光祥出版）『神と人との出会い―わが心の自叙伝―』（エピック）など。

また、一部で過激化した歴史をもつ「同胞団」も、短期間で崩壊したトルコのエルドアン長期政権の与党「公正発展党（AKP）」もイスラム主義政党だ。

――イスラム主義の運動は、今後も影響力を持ち続けるだろう。ISやアルカイダなどで、暴力的なイメージがついてしまったイスラム主義だが、本来は、イスラム的価値や原則で統治されるイスラム国家を目指す思想・政治運動の総称だ。その運動は、イスラム国家実現に向かう方法論によって、テロや暴力を用いる過激派から、民主主義の枠内で政権獲得を目指す穏健派まで実に多様な顔をもっている。実際にトルコのエルドアン長期政権の与党「公正発展党（AKP）」もイスラム主義政党だ。

――ISを含めたイスラム主義の運動は、今後、残党による散発的なテロはあるだろうが、ISの存在は次第に記憶の彼方に消えていくだろう。ただし、こうした急進的かつ暴力的な運動に、数万人もの戦闘員が惹きつけられ、非公式にせよ「国家」を形成するに至った事実は軽視できない。

ISを含めたイスラム主義の運動は、今後も影響力を持ち続けるだろう。ISやアルカイダなどで、暴力的なイメージがついてしまったイスラム主義だが、本来は、イスラム的価値や原則で統治されるイスラム国家を目指す思想・政治運動の総称だ。その運動は、イスラム国家実現に向かう方法論によって、テロや暴力を用いる過激派から、民主主義の枠内で政権獲得を目指す穏健派まで実に多様な顔をもっている。実

古儀を復興し、近代天皇の起点に

朝儀と神事の再興

――光格天皇は何をされたのですか。

光格天皇のご在位中で特筆すべきことは、朝儀および神事の再興・復古です。始められたのは天明6年（1786）頃からで、天明の大飢饉がピークを迎えていた時期です。天皇の生前退位を認めていない現行の皇室典範に抵触し、憲法の問題も絡んで論議を呼びました。しかし、世論調査等では国民の圧倒的多数が退位を支持し、結局、平成29年（2017）6月9日に成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」の附則第1条により、現天皇に限り退位が可能になりました。そして平成31年4月末日の退位が決定され、退位後の称号は上皇と決められました。これも光格天皇（上皇）以来のことです。

今上陛下が平成22年秋頃、宮内庁に光格天皇についての調査を求めたことが新聞記者らの間で話題になり、歴史をたどると生前退位が200年前の光格天皇の譲位であることが知られるようになりました。

今上陛下は退位後の光格上皇のあり方についても強いご関心をお持ちで、その調査を求められたと言われています。こうして光格天皇は、図らずも埋もれていた歴史の片隅から呼び出され、にわかに脚光を浴びることになりました。私の所蔵する「光格天皇御即位礼式絵図」も、今年5月から「即位礼と大嘗祭」の特別展を開催予定の皇學館大学神道博物館から借用の申し込みがあります。

――今上陛下と光格天皇とのかかわりは。

現天皇家は実は光格天皇から始まる血統を引き継いで来られました。江戸時代は皇位を天皇である父親から実子へと嗣いで来られましたが、光格天皇は先代の後桃園天皇の実子ではなく、閑院宮という宮家にお生まれになり、天皇の養子になられて皇位に就かれました。光格天皇から仁孝、孝明、明治、大正、昭和と嗣いで今上陛下に至っています。つまり今上陛下は光格天皇から始まるお血筋です。このように光格天皇と現天皇家とは深いご縁を持っておられるのです